

平成30年10月5日

保護者の皆様

札幌市立西岡北小学校
校長 岩田 敦

平成30年度全国学力・学習状況調査の 結果及び改善について

秋晴の候、保護者の皆様におかれましてはますます御健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。『平成30年度全国学力・学習状況調査』の本校の結果をお知らせします。

本調査は、国が全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、国語と算数と理科の3教科における各校の児童生徒の学力や学習状況を把握することを目的とし、小学校では第6学年を対象に、平成30年4月17日に全国一斉に実施したものです。以下に、本校の取組の成果と課題を改善の方向と共に掲載いたしました。

本校では、『西北スタンダード』として「話すこと・聞くこと・書くこと」において基礎・基本となる学び方をどの学級でもどの子にも身に付けることができるように取り組んでおります。また、「活用力・応用力」を高めていくために、問題解決的な学習を通して、子どもたちの思考・判断力を育む指導をしていきたいと思っております。今後もこの結果を踏まえ、子どもたちに確かな力を付けていくことができるよう、学習指導の重視・活動の充実に努めています。

調査教科と調査事項

◆国語A／算数A:主として「知識」に関する問題

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした出題。

◆国語B／算数B:主として「活用」に関する問題

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容などを中心とした出題。

小学校
国語

本校の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題
(A)

□「話すこと・聞くこと」の平均正答率

⇒全国平均とほぼ同程度で
あるが、やや上回る

□「書くこと」の平均正答率

⇒全国平均とほぼ同程度で
あるが、やや下回る

□「読むこと」の平均正答率

⇒全国平均とほぼ同程度で
あるが、やや上回る

□「言語事項」の平均正答率

⇒全国平均とほぼ同程度で
あるが、やや上回る

主として「活用」に関する問題
(B)

□「話すこと・聞くこと」の平均正答率

⇒全国平均を上回っている

□「書くこと」の平均正答率

⇒全国平均とほぼ同程度で
あるが、やや上回る

□「読むこと」の平均正答率

⇒全国平均とほぼ同程度で
あるが、やや下回る

今回の調査における
課題

(A)「書くこと」

●自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考えること

(問題の概要)

物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択すること

(B)「読むこと」

●目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくこと

(問題の概要)

本文を読み、最も心がひかれた一文とその理由の文章について、空欄に入る内容を書くこと

改善の方向

○構成の工夫とその効果を捉えるという観点で、国語の学習でいろいろな物語を読み、それぞれの作品の構成とその効果を分析したり、分類したりする。

○学習のまとめとしての新聞づくりや作文を書くときなどに、文章全体の構成や、その効果を意識して書くよう指導する。

○国語の学習や、社会の調べ学習のときなどに、目的に応じて複数の本や文章を選んで読み比べたり、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくするように指導する。

○西北スタンダード「話す・聞く・書く」の基本的な学び方の指導の積み上げが効果を上げていると考える。今後も指導を継続していく。

小学校 算数

本校の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題
(A)

□「数と計算」の平均正答率

⇒全国平均とほぼ同程度で
あるが、やや上回る

□「量と測定」の平均正答率

⇒全国平均とほぼ同程度で
あるが、やや下回る

□「図形」の平均正答率

⇒全国平均を上回っている

□「数量関係」の平均正答率

⇒全国平均を上回っている

主として「活用」に関する問題
(B)

□「数と計算」の平均正答率

⇒全国平均とほぼ同程度で
あるが、やや下回る

□「量と測定」の平均正答率

⇒全国平均とほぼ同程度で
あるが、やや下回る

□「図形」の平均正答率

⇒全国平均を下回っている

□「数量関係」の平均正答率

⇒全国平均とほぼ同程度で
あるが、やや上回る

今回の調査における 課題

(A)「量と測定」

●180° や360° を基に分度器を用いて、180° よりも大きい角の大きさを求めることができる
(問題の概要)
分度器の目盛りを読み、180° よりも大きい角の大きさを求める

(B)「数と計算」

●示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現することができる
(問題の概要)
「32, 40」の二つの数の和が9の段の数になるわけを、分配法則を用いた式に表す

(B)「量と測定」

(B)「図形」

●図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が360° になっていることを記述できる
(問題の概要)
一つの点の周りに集まった角の大きさの和が360° になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く

改善の方向

○授業の中で実際に用具を用いて角の大きさを測定する際に、大きさを予測したり、測定方法について検討したり、測定結果を確かめたりする活動を充実させる。

○問題場面における数量の関係について、式を用いて表現できるようにする授業の工夫改善を図る。また、整数や小数だけでなく、分数も含め、四則計算のより一層の定着を図る。

○正多角形の内角や外角の大きさ等について、敷き詰め等の活動を通して性質を見出すような活動を充実させる。

○平面図形についての感覚を豊かにするとともに図形の意味や性質をしっかりと押さえ、図形の学習内容の定着をより一層図る。

○読み取った情報や観点をグラフと関連付けて考えたり、その情報が適切かを検討したりする活動を、授業の中で充実させる。

小学校理科

本校の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題

⇒全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回る

主として「活用」に関する問題

⇒全国平均を下回っている

□「物質」の平均正答率

⇒全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回る

□「エネルギー」の平均正答率

⇒全国平均を下回っている

□「生命」の平均正答率

⇒全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回る

□「地球」の平均正答率

⇒全国平均を下回っている

今回の調査における課題

「物質」

●より妥当な考えをつくりだすために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察できる

(問題の概要)

海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ

「エネルギー」

●乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用できる

(問題の概要)

風が吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ

「生命」

●安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想できる

(問題の概要)

野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ

「地球」

●堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している

(問題の概要)

流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ

改善の方向

○既習の内容や生活経験と関連付けて話し合うなど、自然の事物や現象を捉えるような活動を、授業の中に取り入れる。

○自分の予想や仮説を基に実験計画を立て、実験を行う前に、予想が確かめられた場合に得られる実験結果を見通すなど指導方法を工夫する。

○学習を通して明らかになった性質や働きを活用したものづくりを行い、つくったものが目的に合ったものになっているかを振り返りなど、必要に応じて工夫・改善できるようにする指導を充実させる。

○活動を通して獲得した知識を、自然や日常生活などの他の場面に適応して考える際に、図や模型を用いるなど学習の場を工夫する。

○観察や実験から得られた結果を基に、「事実」と「解釈」を分けて示しながら、自然の事物や現象を科学的な言葉で説明するような活動を授業に取り入れる。

児童質問紙による学習状況調査の結果から(全国平均との比較)

<生活面の質問事項>

- 自分にはよいところがある、他の人に認められていると思う自己肯定感が高い子が多いです。
- 食事や睡眠など基本的な生活習慣が整っている子が多いです。
- 学校のきまりを守り、いじめは絶対にいけないと答えている子の割合が高いです。
- 誰かの役に立ちたいと答えている子の割合が高いです。
- ▲全国平均と比べ、毎日同じ時刻に起きる子の数は上回るのですが、同じ時刻に寝ている子や毎日朝食を食べている子の数は下回りました。
- ▲学校での出来事について家の人とよく話をしている子や、将来の夢や目標をもってしていると答えた子の割合が、全国平均と比べて低いです。
- ▲放課後や週末の過ごし方で、テレビを見たりやゲーム、インターネットをしったりしていると答えた子の割合が全校平均と比べて高いです。
- ▲地域社会の問題や出来事に関心があるまたはボランティア活動に参加したことがあると答えた子の割合が低いです。

<学習面の質問事項>

- 全国平均と比べ、家で計画的に勉強したり、学校の宿題をしたり、授業の予習・復習をしたりする子が多いです。(1日平均、1時間以上～2時間以内の間で家庭学習に取り組む子が多いです。)
- 全国平均と比べ、学校の授業以外で1日当たりの読書時間が長い子が多いです。
- 得意ではない学習でも、勉強することは将来のために大切だと考えている子の割合が高いです。
- 解き方が分からないときには、いろいろな方法を考える子の割合が高いです。
- ▲言葉や記号を使って、わけや求め方などを書く問題では、途中で諦めてしまう子が多いです。
- ▲新しい問題に出会ったときに、それを解いてみたいと思う子の割合が低いです。

みんなで協力する
誰かの役に立つことが
自己肯定感を
高めている

本校の教育活動の中において、みんなでやり遂げる、異学年で協力して活動するなどの経験を通して、自分の学校での存在意義を感じている子が多いことが分かります。生活リズムも整っており、きまりを大切に守りながら、仲間と楽しみ、学校生活を充実させることにつながっていることが分かります。それが、個々の自己肯定感を高めることにも有効に働いているようです。

現状に満足し
新たなことに
挑戦する
意識が弱い

しかしながら、地域や社会に進んで働きかけることへの関心はあまり高いとは言えず、ボランティア活動への参加などに対しては消極的な傾向があることが分かりました。自分たちが身に付けた力に自信をもち、学校や家庭で様々なことに挑戦する機会をつくる必要性も感じます。そうすることで、自らの夢や憧れ、目標をもつことにつながれると考えます。

今の学びを
将来の夢や
目標につなぐ
取組をする

勉強することが将来のために大切であると考えている子が多く、学習に対して意欲的であることが分かりました。また、これまで取り組んできた読書も、学校外の時間で行う子どもが増えてきました。家庭学習による、授業の復習も学力向上の一因となっているようです。引き続き、御家庭での声かけをお願いします。しかしながら、新しい課題を解くことや、自分の考えを書き表すことに不得意を感じている子も多く、課題を解決したときの楽しさを経験させ、将来の夢や目標と結び付けていくことができるような機会をつくっていきたいと考えます。